

in the nursery

逸話ではないもの

Ai Kawano

河野 愛

個展 Solo Exhibition

2018

4/28 [土] - 5/13 [日]

5/7 [月]・5/10 [木] は休廊

12:00-17:00

[日] 土日祝は 19:00 まで

Gallery Suujin / ギャラリー崇仁

元崇仁小学校 (京都市下京区川端町 16) 内

京都駅より徒歩 9 分

オープニングレセプション

4月28日 [土] 18:00

◎ パフォーマンス 18:30~

ゲスト 鈴木英倫子 (すずえり)

サウンドアーティスト

京都市立芸術大学移転整備プレ事業「教室のフィロソフィー」第2回目は、
本学美術研究科修士課程染織専攻修了生の河野愛氏による個展を開催します。

in the nursery

逸話ではないもの

一昨年、祖父母の家が閉館したことから、「in the nursery」は、はじまっています。閉館という言葉を用いたわけは、祖父母の家が太平洋に面した、とある入江に佇むホテルでもあったからです。祖父母はもう他界し長らく立ち寄ることのなかったホテル閉館の日、そこには最後の1日を楽しむ客人が佇む、パブリックなスペースとしての空間が広がっていました。私や家族にとって極めてプライベートな記憶に満ちた空間でありながら、同時に他者の記憶が行き交う、多様な層を持った場所として強く迫って来た不思議なときでした。

入江は、外海との境界が曖昧であり、混沌としたエネルギーに満ちながらも、穏やかな場所です。また入江は、外海に出る前の生物の育成に欠かせないナーサリーエリアという顔を持ちます。まさに私にとって祖父母のホテルは、プライベートとパブリックが

混沌とする入江であると思えたと同時に、だれしもの過去にも入江のような存在があるのではないかと感じたのです。

今回、閉館したホテルと同じく、廃校になった小学校という場所で、個展をおこなうことに数奇な縁を感じます。小学校もまた、個人の記憶が層を成す入江であるはずです。

それはだれかの記憶かもしれないし、わたしの記憶かもしれない。それは同時にどちらの記憶になりうるかもしれない。そのような光景をつくり出したいと考えています。

—— 幼少時代の思い出は逸話ではないということ
フランツ・ヘレンスは知っている——

ガストン・バシュラール「夢の詩学」より



作家プロフィール

河野 愛 [かわの・あい]

1980年 滋賀県生まれ

2007年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻(染織)修了
Royal College of Art 交換留学

2007-2017年 (株)電通 アートディレクター・デザイナー

グラフィックや TVCM、地方創生のアートディレクションを担当しつつ、美術作家としても活動。

現在、京都造形芸術大学美術工芸学科染織テキスタイルコース専任講師

<https://aikawano-works.tumblr.com>



展覧会情報

http://www.kcua.ac.jp/event/20180428_aikawano/

オープニングレセプション

4月28日 [土] 18:00

◎ パフォーマンス 18:30～

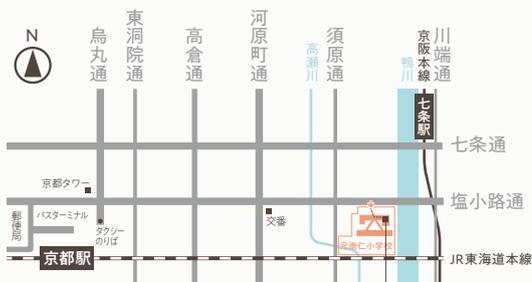
ゲスト 鈴木英倫子(すずえり)

自作装置や楽器、光源を組み合わせ音と影の空間を即興で作りながら演奏を行う。今回はギャラリー崇仁の空間を使い、作品とのコラボレーションを行います。
<http://suzueri.org>



Gallery Suujin/ ギャラリー崇仁

以前は小学校の職員室であった空間が、本学環境デザイン専攻の学生の設計により、ギャラリーとして生まれ変わりました。



ギャラリー崇仁
京都市下京区川端町16

ACCESS

JR 京都駅中央口より徒歩 9分

地下鉄烏丸線京都駅ポルタ A3出口より徒歩 7分

京阪七条駅 1番出口より徒歩 6分

※お車でのご来場はご注意ください。



ギャラリー内観



元崇仁小学校

京都市立芸術大学では、この新たな展示空間「ギャラリー崇仁」において、移転整備プレ事業として、若手作家を支援するためのプロジェクト「教室のフィロソフィー」を実施しています。このプロジェクトでは京都市立芸術大学を卒業、あるいは大学院を修了した若手作家を、小学校解体までの2年間、連続して紹介していきます。日本画、油画、彫刻、染織等様々な専攻で学び、新たな表現を生み出そうと苦闘している作家たちが生み出した作品群からは、現代の新しいアートの息吹を感じていただけることと思います。